

第4回 「ジェンダーと開発」プログラムについて

「ジェンダーと開発」プログラムはサセックス大学開発研究所 (IDS) と社会文化部 (SOCCUL) の合同プログラムであり、今年で開講17年目になります。プログラムの創立者の一人である、アン・ホワイトヘッド教授などは、今でも現役で教鞭をとられています。「ジェンダーと開発」プログラムにおける教授の多くはアフリカを専門地域としており、専門分野は社会学、経済学、政治学、人類学など多岐に渡っています。また、「ジェンダーと開発」分野において著名な教授が揃っていて、ジェンダーと開発における国際機関(特に世界銀行)の政策などに大きく貢献しています。

このプログラムに在籍している学生の殆どは留学生で、イギリス人は1人しかいません。学生の出身国はパキスタン、中国、インド、ボツワナ、ナイジェリア、日本、アメリカ、ペルー、カナダ、デンマーク、イラン、ドイツ、です。全員、国際機関、政府機関、NGO、研究機関などでの職歴があり、各自、問題意識をはっきりと持って勉強しているのがとても印象的です。また、毎年、少なくとも1人か2人は男性の学生がいるそうなのですが、今年は全員女性となっています。「ジェンダーと開発」における男性の活躍が期待される中、このプログラムへの男性応募者は歓迎される(男性応募者なら必ず入学できるという意味ではありませんが)ということを目にしていますので、男性の方々にも積極的に応募して頂ければと思います。

授業は主にセミナー式となっており、レクチャーなどもありますが、基本的には大量の文献を読み、それを基に討議するという形がとられています。また、学生の評価は学期末リサーチペーパーに比重が置かれており、試験はありません。しかし、学期中はセミナーや文献を読みこなすのに時間をとられるため、各学期間にある休み(冬休み・春休み)に学期末リサーチペーパーを仕上げることになります。

授業の内容は一学期が「ジェンダーと開発:社会経済」と「ジェンダーと開発におけるセオリー」、2学期が「ジェンダーと開発における主要イシュー」と「ジェンダーと開発政策にかかる政治」、夏学期が基本的に卒業論文となっています。また、第2学期には、前述した2つの授業のどちらかの代わりに、別の学部の授業をとることも可能で、私のクラスメートの中には、「人権」や「移民とジェンダー」、「開発経済」などをとる予定の人もいます。ですから、ジェンダーと開発における分野で、更なる絞って勉強することも可能と言えます。

私は、今年10月から「ジェンダーと開発」プログラムに在籍しており、授業が始まってからまだ2ヶ月しか経過していませんが、大変充実した日々を送っています。開発におけるジェンダーイシューは、各地域によってアプローチが多少異なるため、世界各地から集まっているクラスメートとのディスカッションは、大変興味深いものがあり、学ぶところは大きいです。また、授業では、今までの開発分野における各自の経験や知識をクリティカルな視点から分析し、それを他の生徒と共有することが求められています。このようなことから、「ジェンダーと開発」プログラム(他のプログラムにも言えることかもしれませんが)に入学を希望される場合には、入学希望動機に関するエッセイなどにおいて、「学びたいこと」だ

けではなく、「自分が他の生徒と共有できること」などに関しても触れると良いのではないのでしょうか。
サセクス大学や同プログラムの詳細に関してはホームページ <http://www.sussex.ac.uk> をご覧ください。

2003 年11月25日

「ジェンダーと開発」修士課程 光岡真希



(ジェンダーと貧困セミナーにて)